翼ばあーる
アフガニスタン山の学校だより28号

# 第10回総会&現地報告会 大阪現地報告会 開催しました！

## 《別紙》第10回総会資料

下校する子どもたち。学校の中庭に、故サフダル校長が植えた杏の花が咲いていた

2013年も年の瀬、まもなく2014年がやってきますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

最初に報告したいのは、9月15日に行なわれた第10回の総会が台風の直撃という事態にも関わらず、過去最高の111名の方が参加して、無事に終えることができたということです。参加者、ゲスト、運営委員が一体となった温かい総会となったことを心より感謝いたします。

いままで、指導者マスードの「アフガニスタンの再建を担うのは子どもたち。その教育にこそ力を注がなければ」という言葉を支えに活動を続けてきました。しかし、皆さまが新聞・テレビでご存知のように、政治状況は混沌としており、戦いも終息しておりません。来年は大統領選挙、米軍撤退と続きますが、その先の見通しも定かではありません。だからこそ、「戦いは必ず終わる」というマスードの言葉を再度、深く噛み締めたいと思います。

会が活動を続けた10年。何ができたか、と自問するとき、目に浮かんでくるのは山の学校を巣立った子どもたちの一人一人の笑顔です。そして、アフガニスタンの未来を担うことになる子どもたちのそれぞれの夢に触れることができたこと、人々と平和への思いを共有できたことを心よりうれしく思います。その思いを胸に、残された活動を精一杯、続けていきたいと思います。

長谷洋海

# 第10回総会&現地報告会を開催しました

**9月15日(日)。台風の直撃を受け朝方は大雨・暴風も、総会開始数時間前には見事に晴れ、多くの方々をお迎えできました。2004年から10年間の活動を目標とし、最後の年となる今回の総会・現地報告会は、この10年を振りかえりました。**

司会(水間)

**★代表挨拶…長倉洋海**

今回が公式的な最後の総会となります。この間事故なく続けてこられたのは、本当にみなさんのご支援の賜物です。総会の度にみなさんと話をして、たくさんの支援をいただいて、それを山の学校の子どもたちに届けることができました。そして子どもたちの姿も、パネルやスライドなどでお見せできたと思います。10年は単なる区切りなので、明日から何かが変わるわけではありませんが、みなさんの心の中にテレビ・新聞とは違うアフガニスタンの子どもたちや人々の姿が刻まれたとしたら、私は大変嬉しく思います。

**★活動報告…比留川征子**

**国内活動**　活動の大きな柱は「アフガニスタン理解の一助となるよう尽力する」ですが、その下の柱のひとつに「関係諸団体との協力」があります。10年を記念して、安井浩美さんが主宰するシルクロード・バーミヤン・ハンディクラフトにアフガニスタンのオリジナルグッズの製作を依頼しました。そして今年は2014年以降の活動について、運営委員会で何度も話し合いました。

**現地支援活動**　先生のレベルアップに対しても支援してきました。今年は日本人の協力者を得て、音楽と生物の授業を実施できました。

卒業生のインタビューに(会報27号参照)、山の学校の教育は充実していたという発言がありました。不足する教師を会の支援で雇用し、また教師のレベルアップを促してきた、それが成果となって表れていると思います。

**★会計報告…森桂子**

**2012年度収支**　昨年度の収支としては、会費が最終年度分の分割会費と合わせて80万円弱で、前受け金と合わせると2012年度用の会費は約290万円となりました(最終年の2013年度は現総会時点で約300万円です)。また寄付は67万、事業収入は長倉代表撮影のJVCカレンダー販売で販売支援金が還元されたために例年より多く、ポストカードや書籍販売、パネル貸出、それに総会・報告会参加費を合わせると84万になりました。支出では車に関して大きな変化があり、運転手を兼ねた先生に山の学校所有の車を売却、女教師の送迎と女子高生通学支援を委託契約しました。来年春以降、車をいかに維持して送迎を継続するかを考えた末の対応でしたが、結果的に費用の節約になっています。国内活動費としては、総会・会報・通信費などの経費を全額前述の事業収入でまかなうことができました。よって、会費・寄付はすべて現地での活動に向けられました。

**サブダル遺児育英基金**　毎月の育英支援のほか、今年からはポリオを患い障がいの残る下の子ども二人をリハビリ病院へ通院させるための交通費を支給しています。また、現在、山の学校8年生と9年生の子どもたちの希望と成績が伴えば上級学校への就学支援にも充てる予定です。今年度末時点での残金は約110万円。

**2014年以降の活動資金**　10年間の活動が終了する来年3月末時点で約1100万円の繰越金を見込んでいます。これを資金にして、3年間は確実に延長して先生の給与・送迎支援などをしていく予定です。

過去最高の来場者!

**★2014年以降の活動…長倉洋海**

校長サブダルから支援を頼まれた当時は、国からの給与支払いは滞り、先生方は果たして山の学校で教師をして家族を養えるのか、それよりNGOスタッフとして町で働いたほうがいいのではないかと思い悩む状態でした。いまだ混乱は続いていますが、人々は戦争当時やタリバーンがいた頃に比べればずっといいと言っている、それが実感だと思います。実際、1年生もみんながスカーフをするようになったり、カラフルな洋服を着るようになったり、小さなことですが本当に変わってきている、それが今回、この10年で区切りをつけようと思った大きな理由のひとつです。先生方には当初から10年間限定の支援であることは伝えていました。ただ、運営資金の続く限りは給与・送迎の支援活動は続けたいと思っています。それから、現地へ年1回は、私または他のスタッフが1名程度行けるようにしたいと考えています。また、この会を継ぎたいという方がいれば継いでもらってもいいという考えもあります。

## スライドトークによる現地報告会

**今回のスライドトークは、当会設立から10年の歩みをふりかえるということで、設立以前の写真から本年訪問時の最新の写真まで、幅広く使用しました。**

最初は若きマスードの写真。まだ北部同盟がタリバーンと戦闘状態にあった頃の写真です。教育施設の拡充に当時から大変な関心を持っていたマスードの一枚に、長倉代表のコメントも自然とあつくなります。撮影場所はマスードの家の中庭で、長倉代表のカメラは、マスードのおだやかな、とても戦いのさなかにいるような人間とは思えない、やさしく微笑んだ表情をとらえていました。

マスードが亡くなってから1年後の2002年、長倉代表はかつてマスードと共に何度も訪れたことのあるパンシールを再訪します。当初の山の学校は、机や椅子はおろか、窓やドアすらもなく、下手をすると牛が教室に入ってくるような、そんな状況でした。日本の支援者の方から預かった資金で机と椅子を調達し、山の学校への搬入を行なったのですが、その時の写真も何枚か紹介されました。机と椅子を運び込む子どもたちはとてもうれしそうでわくわくしたような顔をしています。教室で子どもたちと一緒に写真におさまる長倉代表の表情は、一仕事終えてほっとしたといった感じ。しかしその目はすでに未来を向いていたのかもしれません。ここから山の学校支援の会の活動が本格的にスタートするのです。

スライドは、パンシールの大自然の中に生きる子どもたちの様子を次々に映し出していきました。サッカー、バレーボール、縄跳びを楽しそうにする子どもたち。交流会でジュースやバナナをもらって嬉しそうな子どもたち、ペンケースや手袋をもらって手に掲げる子どもたち。現地訪問で実施した様々なイベント(人形劇、スイカ割り)の写真も紹介し、大喜びの子、ものめずらしそうに見ている子、子どもたちの一瞬の表情が次々とスクリーン上に流れていきました。後半では何人かの子の10年間の成長を追いかけようということで、アミンやナイマの今昔の写真がたくさんでてきて、彼らがこの10年でいかに大きくなったかがよくわかりました。二人とも美男美女になっていて、将来のことがだんだんと気になる年頃になっています。

最後に、長倉代表から一言あいさつがあって、スライドトークは終了しました。「今年の訪問で実施した女子学生へのアンケートを見ると、将来の夢として医者、法律家、ビジネスウーマンになりたいとありました。山の学校に入学してきた頃に持っていた夢を、高校生になってもなお持ち続けられるまでになったこと(しかも女の子が)、子どもたちが小さいころ持っていた夢を育むことのお手伝いが少しでもできたことが、私にとってとても嬉しいことだし、それこそが皆さんにもご報告したいことなのです。」

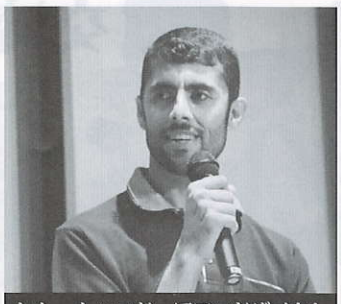
子どもたちの成長に
目を細める長倉代表

## セデカさん&留学生トーク

**江藤セデカさんと農工大で学ぶ留学生お二人による講演「わが祖国アフガニスタン」。長倉代表も加わって日本語、ダリ語交えてのトークとなりました。一部をQ&A形式でお伝えします。**

**Q アフガニスタンの将来をどう思っていますか?**

**アフマドザイさん** 国が成長するにはやはり正しい教育が必要です。教育のレベルを上げることは国づくりにも結び付きます。新しいテクノロジーを取り入れる際にも影響します。



ホル・ムハマド・アフマドザイさん(パシュトゥン)。カブール大卒。2008年に来日

**Q 貧しくて学校に行けない現実と本当に教育が必要だというギャップをどのようにしたら埋められると思いますか?**

**アザムさん** アフガニスタンは2001年以降たくさんの国際支援団体の支援を受け、どんどん成長に向かっています。30年間戦争で戦ってきて何にもならなかった。人々の考え方が変わってきて、皆、自分の子どもを必ず学校に通わせて教育を受けさせたいと思っています。少しずつこのようになってくれれば国も変わると思います。

**Q 子どもたちが農作業のため学校に行けない現状がありますが、今学んでいることがこの状況を改善するためにどのように役立つと思いますか?**

**アフ** 現在農業のシステム化メカニズム化がされていません。昔のやり方を現代的なやり方に変えるためには、教育が必要。人材は育ってきていますが、今は学んだことを使えるところがあまりないです。私たちが学んだことを現地に戻って伝え、それを人々が利用できれば栽培量も増え、質は良くなり、収入も増えると思われるけれど……。

**アザ** 重要なのは、私たちは日本や他国から学んだことは絶対に手放さないということです。教育で身に付けたことは一生なくならないのです。いつかアフガニスタンにも成長の時が来て新しいシステムを使う機会が訪れるでしょう。私たちは国に戻りカブール大の農業部門で教えますが、そこで日本で学んだことが様々な地方からきている学生たちに伝わり、ゆくゆくは各地で絶対に役立てられるはずです。

アサドゥラァ・アザムさん(パシャイー)。カブール大卒。2011年に来日

**Q こんなアフガニスタンになったらいいなぁというイメージはありますか?**

**アフ** まずは独立しているアフガニスタン。そして教育のある、統一したアフガニスタン、成長するアフガニスタンです。

**アザ** 子どもを学校に行かせたら無事に家に帰ってこられるかという心配のない、平和なアフガニスタンです。

**セデカさん** 女性が男性と同じ権利を持って、自分の意見を持って生きていけるようなアフガニスタンになってほしいです。

**長倉** 皆さんの心の中に今日の出会いも、アフガンの山の学校の子どもたちも残っていく。それがまた次の出会いを生んで自分の中でも拡がりが出てくるのではないかと思います。私自身二十歳のころからアフガンに通っていて、訪れるたびに新しい出会いがあって、自分の中で少しずつ成長できていたと感じます。これを機会に、アフガニスタンに限らずいろいろな国の人と心に感じた部分で交流していける、皆さんにとってこの会がそういうきっかけになったとしたらとても嬉しいです。

江藤セデカさん

### アンケートより

**●総会について**

活動と収支報告がコンパクトにまとめられ、支出は、ただ要望をのむだけではなく、厳しいチェックをしていることもよくわかりました。

3年後のことは気がかりですが、現実を踏まえた今後の方針を理解できました。

**●スライドトークについて**

10年間の子どもたちや学校、アフガニスタンの歩みが振り返れてよかった。国づくりは人づくり。教育が大切であることを強く感じます。

**●セデカさん・留学生トークについて**

アフガニスタンの方々のお話を直接伺う機会はめったにないのでとても興味深かったです。「子どもが無事帰宅できるようになってほしい」というアザムさんの言葉には実感がこもっていましたね。

留学生のお二人の姿が山の学校の子どもたちと重なりました。外国人から見るとなかなか復興が進んでいないようでも、教育は少しずつ広まり、人材が育っているなと思いました。

**●10年の活動を振り返って**

10年間という期間を区切っての活動がよかったと思う。支援する側も緊張感と関心がもてる期間だった。また山の学校の卒業生が、学校や地域活動を担う側になりつつあるというのが本来の目的と合っていたように思う。

## 大阪現地報告会

司会(雨堤)

11月23日(土・祝日)第10回大阪報告会を高槻市で開催しました。天気も良く、様々な催事があったにも関わらず90名の参加でした。毎年参加してくださる会員の皆さん、最後だからと遠方から駆けつけてくださった会員の方がた、そして、今回は直前の新聞記事をみて参加してくださった方も多く、にぎやかな会となりました。また、長倉代表と親交の深い今村学園高槻幼稚園ひなぎく会の皆さんもたくさん参加してくださいました。会場に来てくださった皆さん、ありがとうございました。

運営委員の雨堤秀美の司会で開会し、長倉代表のスライドトークとなりました。「子どもたちの夢の手助けをと思い支援を始めたが、逆に教えられること、励まされることの方が多かった。一番よかったと思うのは、将来を背負うことになる子どもたちと関わることができたことです。支援活動が終わっても、関心を持ち続けることが大事だと思う。これからも子どもたちを通してアフガンを見続けていきたい」という長倉代表の言葉が皆さんの心に静かに響いているようでした。

質疑応答では、女性の社会進出についての質問や、「亡くした娘の想いを継ぐかたちでこの会に参加してきたが、自分が勇気づけられた」という言葉、「会員の私たちが、これからできる支援があれば手伝いたい」「大阪でもなにかしらできたらいいなぁ」といったあたたかい声があがりました。

飛び立った翼(ばあーる)が、ひとまず、着地することになります。これからも、それぞれの居場所で、アフガンで成長していく子どもたちに思いを寄せ続け、この会で知り合った私たちも繋がり続けられればと思っています。(文・写真 林正規)

10年間の子どもたちの成長をまとめた展示を見る参加者の皆さん

# 交流会フォト・ギャラリー

参加者とにこやかにお話するアフマドサイさん

サイン会も和やかに盛り上がりました

公式訪問のときに撮影してきたビデオで「山の学校」の子どもたちの様子を熱心に見ながら話もはずんでいるようでした

今年も参加者の方からたくさんの差し入れをいただきました。手作りのクッキーやケーキをはじめいろいろなお菓子がテーブルの上に所狭しと並び、とてもアットホームな雰囲気の交流会でした。ありがとうございました！

今年もプリントセールが好評でした

参加者の話に耳を傾けるアザムさん

親しくお話をする参加者の姿が会場のあちこちで見られました

## 広がれ！パネル展の輪

11月3日、毎年恒例の今村学園高槻幼稚園ひなぎく祭。小雨模様の中、無事くす玉も割れて始まりました。今回の山の学校ブースは、園の80周年記念展示の隣りのゆったりとしたスペースでした。前日準備の時、一粒ずつあげたレーズンやひよこ豆をまた食べたくてやってきた園児たち、旧交を温める大人たち。山の学校の子どもたちが笑顔で見ていました。

20年以上にわたり長倉さんと交流のある今村学園。園舎の改築を控え、現園舎で山の学校の写真展を開くのは最後。感慨深いものがありました。（大阪運営委員・辻内奈穂美／写真・林正規）

## ★長倉洋海 最近の活動

チラシを同封いたしました**『おーい、雲よ』**（岩崎書店）に続いて、**『ルーマニアーアナマリアの手作り生活』**（偕成社「世界のともだち」シリーズ第1巻・本体1800円）、谷川俊太郎さんの詩と長倉代表の写真による**『小さなかがやき』**（偕成社・本体1300円）も発売されました。ご覧いただけると幸いです。

## ポーランデの小さな仲間たち

ジャッファルくん 6歳

トゥバちゃん 6歳

ナズィラちゃん 6歳

ナースラーちゃん 6歳

ファーヤーズくん 6歳

**アフガニスタン山の学校支援の会**は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パンシール渓谷ポーランデ村の子どもたちの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。

「**アフガニスタン山の学校支援の会10周年記念オリジナルポーチ**」はおかげさまでたくさんの方からご注文いただき、完売しましたので、販売を終了いたします。ありがとうございました。前号と一緒にチラシをお送りいたしました「**山の学校クリアファイル**」は販売継続中です。在庫がなくなり次第、終了となりますので、お早めにお申し込みください。

## 事務局から

- 第10回総会・現地報告会で配布した資料を同封いたしました。今回は最後の総会でしたので、2014年4月以降の活動につきましては、すでに会報26号で「大切なお知らせ」として掲載したものを再度掲載いたしました。内容をご覧になりご意見やご感想などがございましたらぜひお寄せください。
- 2013年度分割会費未納の方に郵便振替用紙を同封させていただきましたので納入をお願いいたします。残額は封筒宛名ラベル下段の数字で表示しています。
- 不要切手、書き損じはがきのご提供をいただき大変助かっています。これまでのご協力に感謝するとともに最後までどうぞよろしくお願いいたします。
- 住所変更の場合はお手数ですが電話、ファックス、はがき等で事務局までご連絡をお願いいたします。
- ポストカード（2集～6集）の在庫がまだ少しあります。1セット250円と半額にいたしましたのでどうぞお求めください。

アフガニスタン 山の学校支援の会
〒187-0032 東京都小平市小川町1-1071-15 比留川気付
FAX&留守番電話：042-345-7805 E-mail:info_yamanogakko@yahoo.co.jp
http://www.h-nagakura.net/yamanogakko
郵便振替口座：00160-1-667404
編集●天野みか 岩動 紫 大守裕 水間真紀
題字●近藤理恵 デザイン●浅井充志 印刷●藤田印刷（株）